

看護の立場から適切な 放射線治療提供体制を検討 (専従・有資格看護師の意義と職務)

研究分担者 荒尾晴恵¹⁾
研究協力者 青木美和¹⁾、山本瀬奈¹⁾、藤本美生²⁾

1) 大阪大学 2) 兵庫県立がんセンター

1

I. 今後の予定

1. 今後3年間の研究計画

がん診療連携拠点施設を中心とした専従または有資格看護師の
意義とあるべき職務についての提言作成

【R5,6年度】有資格者の放射線外来配置による
効果の可視化
(診療録の分析、患者や治療経験者の評価等)

【R5年度】~~評価指標の検討、診療録の分析が
できる施設の交渉~~

R5年度

- ・ 諸外国の基準を参考にした苦痛緩和に必要な専門的な看護師数の算出

【R7年度】
データ分析
提言作成

R6年度

- ・ ・ スライドには、前回会議までのサマリー、前回以降の進捗、課題、今後の予定、発表や論文文化予定、を含めてください
- ・ ・ 適宜、ワードやエクセル資料をお付けください

2

R6年度進捗



1) 研究課題名「頭頸部がん患者における放射線療法期間中の患者報告アウトカム（PROs）に基づく急性期有害事象と日常生活への影響に関する後方視的研究」

大阪大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会に申請し、研究実施許可を得た医療情報部にデータの抽出を依頼中である

2) 認定看護師の活動成果に関する文献調査

・ Okuyama A, et . Certified nurse specialists in cancer nursing and prophylactic antiemetic prescription for chemotherapy patients. Support Care Cancer 30(7) 5931-5937 2022

専門看護師の配置がある施設のほうが、ガイドラインを遵守した制吐剤が使用されている

・ 山中政子, 鈴木久美, がん疼痛のある外来患者に対するオピオイド鎮痛薬の服薬指導および看護ケアの実態調査 がん診療連携拠点病院と一般病院の比較. 日本看護研究学会雑誌. 45 (2) . 339-348. 2022.

オピオイド鎮痛薬を初回導入された外来患者への服薬指導やがん疼痛看護ケアは、がん拠点病院が一般病院より実施している可能性が示された。外来でのがん疼痛看護ケアにおいては、がん疼痛看護ケアにおける困り事を相談できる支援と教育体制の整備、多職種連携の整備が課題と考える。

3

3. 今後



医療情報部からのデータを解析し患者ケアの必要性を明確にする。

4. 論文・成果発表

論文

青木美和, 藤本美生, 山本瀬奈, 荒尾晴恵. がん放射線療法看護認定看護師の役割活動と配置状況および活動時間の関連. 日本放射線看護学会誌, 12 (2) , 25-35, 2024.

その他

日本放射線腫瘍学会第37回学術大会におけるワークショップ開催

セッションテーマ：放射線治療現場におけるあるべき看護師の役割と他スタッフとの協働

4